

図画工作科指導案

指導者 新橋小学校 塩見 璃果

1. 日時・場所 令和4年 9月 6日(火) 第1・2校時 場所 図工室
2. 学年・組 第4学年3組33名
3. 「学習の方向性」から題材へ

造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を育む「学習の方向性」

○感じたことや想像したこと、見たいことから表したいことを見付け、工夫して表す。

○活動したことや表現したもののよさや面白さなどを感じ取ったり考えたりし、見方や感じ方を広げる。

【A 表現(1)ア(2)ア】【B 鑑賞(1)ア】【共通事項】(1)アイ

子どもたちの姿

絵を描く活動や、物を作る活動に楽しく参加している児童が多い。朝の時間を活用して、さまざまな絵と触れ合い、想像力を膨らませる経験をしている。しかし、言葉から場面や様子を想像することが苦手な児童もいる。

教師の願い

自分の思い描いた花を自由に表現する楽しさを感じながら活動を進めたいと考えている。互いの作品を見合うことで、表現の良さや面白さに気付き、自分の作品の発想がさらに豊かになってほしい。

題材名

まぼろしの花

～自分だけのまぼろしの花をさかせよう！～

題材目標

○まぼろしの花の世界を表すときにスパッタリングやぼかし絵などの技法を用いて、色のにじみ方や感じ花びらの模様や形、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどが分かるようにするとともに、ストローやローラーなどの経験を生かしながら、表したいことに合わせて表し方を工夫して表現する。

○まぼろしの花の世界を想像したことから、表したいことを見付け、スパッタリングやぼかし絵や、スタンプ材やローラーなどを生かしながら、どのように表すかについて考えるようにするとともに、自分たちの作品の造形的な良さや面白さ、表したいことなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げるようにする。

○進んでまぼろしの花の世界を想像して表す学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わる。

題材について

本題材は、自分だけのまぼろしの花を思い浮かべ、水彩絵の具や、スパッタリング・ドリップングなど既習を生かして、絵に表す題材である。その花の感じに合う形や色を見付けて咲く場所や、周りの様子なども考えたり工夫したりする活動を通して、豊かに想像する力や工夫して表す力を育てる。導入での紙芝居を用いて『絵の具でゆめもよう』で使ったスパッタリングやドリップングやはじき絵などの技法を思い出しながら花を描く時に組み合わせる。紙芝居の中に出てくる種がいろいろな場所に落ちていく様子を見ながら、自分ならどこに種が落ちて花が咲くか考えながら表したいことを見付ける。

○「学習の方向性」を基に育成を目指す資質・能力と本題材との関連

「まぼろし」という言葉から花を思い浮かべ、想像を膨らませる手立てを用意する。また、その花に合う色や形を見付けられるよう、ためす時間を十分に確保する。空からきた種がいろいろな場所に落ちていく様子が描かれた紙芝居を見ながら、まぼろしに対する思いを膨らませる。思いに合わせた紙の材や形の材料を工夫したりする活動を通して、豊かに想像が広がるよう互いの活動が見えるようにする。

研究主題

感性豊かに生きる力をはぐくむ図画工作科学習の創造

～感じる つくる 考える 子どもの姿を求めて～

部会テーマ

工夫してつくることを楽しむ子どもの姿をめざして

○出あいの設定

- ・紙芝居を用意し、まぼろしの花がどんな場所に咲いているか想像できるようにする。
- ・事前にアートカードを使い、言葉からイメージを膨らます経験を積む。

○場の設定の工夫

- ・教室が狭く絵の具セットを置く場所が確保しにくい場合、図工室を使用し、描くことに集中できるようにする。
- ・技法を掲示して、既習の表現方法を思い出しやすくする。

○共感的支援の工夫

- ・表現することが苦手な子どもに対して、対話を通して表現方法や色を提案し、自信をもって活動に取り組めるようにする。
- ・自分では思いつかない表現の良さに気づき、自分の作品のイメージを膨らませ、楽しく活動できるようにする。

○小中一貫の視点

- ・感じ取ったことや考えたことから構想を練ることができるようになることは、高学年の絵や立体に表す活動、中学校での絵や彫刻に表現する活動につながっていくと考えられる。また、表現者によってさまざまな表し方があることに気付くことができるようにする。

5. 題材の評価規

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・まぼろしの花の世界を表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどに気付いている。 ・水彩の具を適切に扱うとともに、ローラーなどについての経験を生かし、手や体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表しかたを工夫して表している。	・形の感じ、色の感じ、それらの組み合わせによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながらまぼろしの花の世界を想像した子からどのように表すか考えている。 ・自分たちの作品の造形的な良さや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方について、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や考え方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい進んでまぼろしの花の世界を想像して表す学習活動に取り組もうとしている。

6. 指導と評価の計画 4時間(本時1・2校時)

ア. イ. まぼろしの花について、咲く場所や種の形などを考える。(1時間)

ウ. まぼろしの花を画用紙に描く。(2時間)

エ. 完成した作品を見合う。(1時間)

	子どもの学習活動	評価規準 【評価方法】	教師の指導	知・技	思・判・表	主体的
	まぼろしの花ってどんな花？					
ア	○紙芝居の読み聞かせを聞く。	【思・判・表】 形や色を生かしなが ら、どのように表 すかについて考え ている。【発言】	○読み聞かせから、 まぼろしの花のイ メージや今まで学 習した技法を想起 する。			
イ	○「まぼろしの花」から思いつくこと を出し合う。 ・カラフルな色、不思議な形 ・夜にだけ咲く、朝にさく、満月の日 に咲く ・山奥に咲いている、海の中 ・いい匂いがする ○どんな種から花が咲くのか種を想 像する ・くねくねした形 ・種もカラフル ・とても大きい	【知・技】 形や色の感じの組 み合わせによる感 じや色の明るさに 気付いている。【活 動の様子・作品】	○どんな花かだけ でなく、どんな場所 に咲きそうかなど、 想像を広げられる ように声をかける。 ○種からどのよう な芽が伸びて花が 咲きそうか考えを 膨らませるよう導 いていく。			
ウ	自分の花をさかせよう！					
	○想像したまぼろしの花に合うよう にいろいろな技法を使ったり、背景し 考えたりして絵に表す。 ・光輝くようすを表そう ・嬉しい気持ちになるように色を明る くしよう ・周りの花より目立つような大きな模 様にしてみよう	【思・判・表】 色や形の組み合わ せをもとに、自分 のイメージをもち ながら表している。 【知・技】 【作品、発言】 互いの作品の造形 的な良さや面白さ に気付いている。	○良い部分や、真似 してみたい部分を 書くよう声をかけ る。			

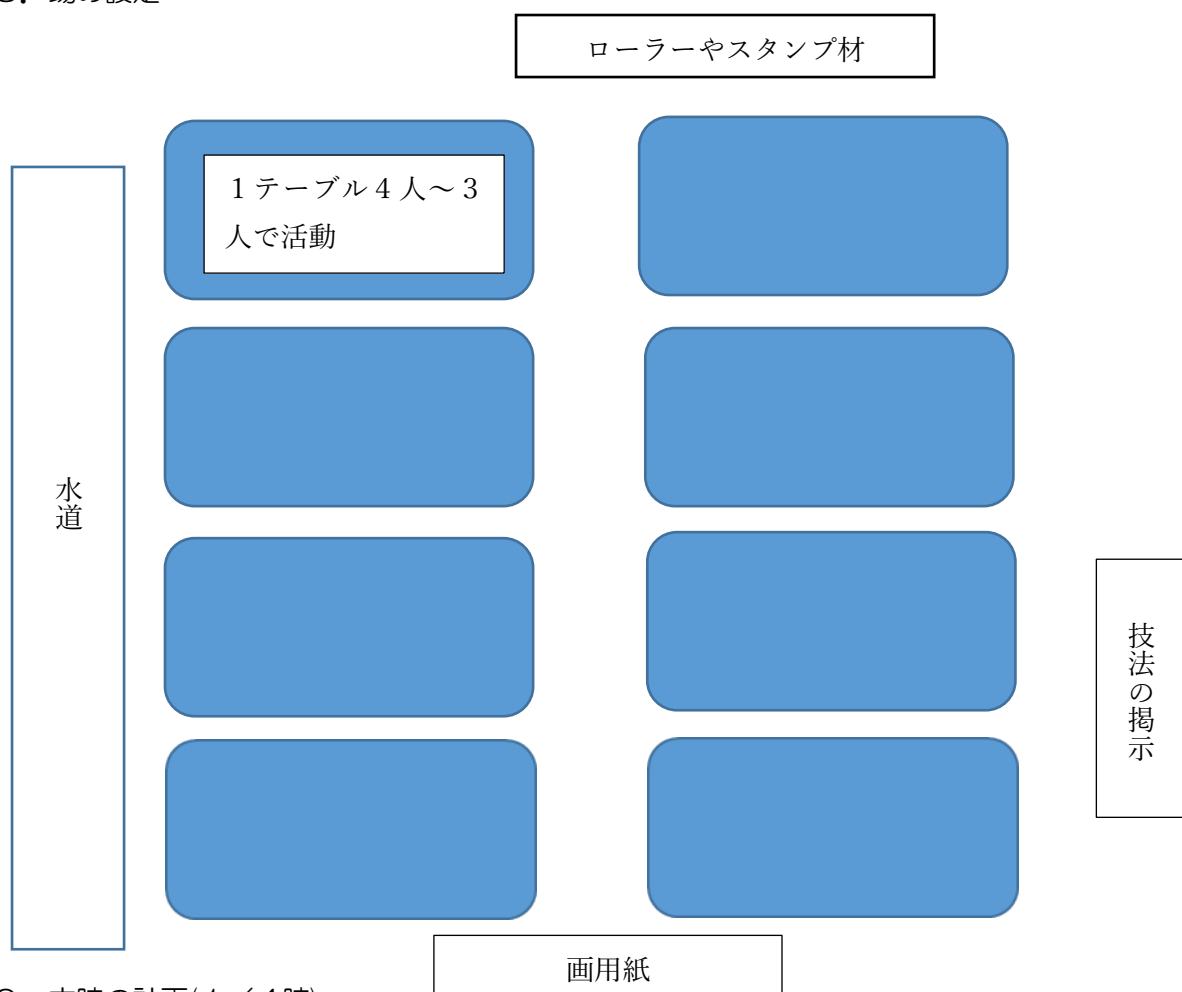
エ	お花見をしよう！		
	○まぼろしの絵を引き続き取り組み、完成させる ○友だちの作品を見合いながら、感想を伝える。	㊦ まぼろしの花の世界を楽しみながら活動に参加している【活動の様子】	

7. 準備

児童：水彩絵の具、パス、図工マット

教師：画用紙、色画用紙、ローラー、スタンプ材、金網、歯ブラシ、ストロー、紙芝居

8. 場の設定



9. 本時の計画(1 / 4時)

本時目標

- ・まぼろしの花の世界観を想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すか考える。

子どもの学習活動	具体の評価規準と評価方法	教師の指導
○教師のもってきた紙芝居をみて、まぼろしの花について想像を膨らませる。		●紙芝居を通してまぼろしの花が書けるよう、不思議な世界を提示する。
自分だけのまぼろしの花をさかせよう！		
○前回作った技法の紙を使って、種をつくる。	まぼろしの花を想像して、いろいろな形や色を考えながらどのような種にするか考えている(思)【活動の様子、発言】	●作り方を思い出しながら種の形を作るよう、声をかける。
○種から咲く花の大きさを考えて、画用紙を選ぶ。		●表したい花の大きさにあう画用紙が選べるよう、多めの画用紙を用意する。
○想像した「まぼろしの花」の感じにあうように、表しかたを工夫してかく。	表したいことに合わせて材料や用具を使い。表し方を工夫している。(知・技)【活動の様子】	●道具の使い方をもう一度想起できるように、使い方を提示する。
○花のイメージに合わせて茎や葉をかきたす。		●花を書く場所などや大きさを考えながら描き始められるよう声をかける。 ●周りの人の描き方を見て、参考にできるように、声をかける。

10. 研究内容の振り返り

◎手立てについて

- ・「絵の具でゆめもよう」で使った技法を思い出せるように、導入で示したり、見える場所に掲示したりした。
- ・技法の方法を忘れたり、どんな模様ができるかおもいだせなかったりする子どもが多かった。材料を選ぶときにどんな模様ができるかわかるようにサンプルを設置した。
- ・思いついたことを表す活動を止めないように、最初に流れをすべて掲示し、自分のペースで進められるようにした。

◎場の設定

- ・図工室を使うことで、広く場所を使うことができた。水道もすぐそばにあるので、わざわざ洗いに行く手間が少なかった。
 - ・3～4人のグループで活動をするので周りの作品を参考に自分の作品を描くことができた。
- ▲どんなところが幻なのか考えつかないまま花を描き始める子がいた。
- ▲今後も自分の中の思いや想像を表す活動をするときに、効果的な事前準備や導入があるか。